

# 国際教育と教育実践

## —「地球市民」としての教師の在り方—

日時：2018年10月28日（日）

10：30～17：00

会場：立命館大学朱雀キャンパス

## 立命館大学実践教育学会

## 第2回研究大会 報告

2018年10月28日に立命館大学朱雀キャンパスにおいて、立命館大学実践教育学会第2回研究大会を開催いたしました。以下に簡単に報告いたします。

### 【 実践研究報告会 】 10：30～12：00



実践研究報告会では、まず本研究科院生（現職教員、臨床教育コース）の恩庄澄氏が「困難を抱えた中学生の自立と支援」と題して発表を行いました。長年の中学校教師としての経験から、家庭や地域との連携によって生徒の発達を保障していくあり方を示されました。次に、本研究科院生（現職教員、教育方法・学習科学コース）の岩倉衣梨奈氏が「対話を核とした読みの授業づくり」と題して発表を行いました。国語科における主体的な学びをどのように作り出していくかが議論されました。

### 【 講演会 】 13：30～14：50



講演会では、藤原孝章先生（同志社女子大学特任教授、日本国際理解教育学会会長）にお越しいたいただき、

「グローバル・シティズンシップ教育と実践を担う教師のあり方」と題して講演いただきました。内外の国際理解教育の歴史を振り返っていただくとともに、現代に必要なグローバル・シティズンシップ教育のあり方、さらに教師はどうあるべきかについて方向性をお示しいただきました。校種や教科を越えて、参加者に、教師として何ができるか、大きなヒントをいただきました。

### 【 シンポジウム 】 15：00～17：00



講演会の後に、「国際教育の取り組みと教師—小・中・高等学校からの報告—」と題したシンポジウムを実施しました。シンポジスト及びテーマは、次の通りです。

- ・森田育志先生（神戸大学附属高等学校）：「ESDの取り組みに関わって」
- ・松倉紗野香先生（埼玉県上尾市立東中学校）：「グローバル・シティズンシップ科に関わって」
- ・幸田隆先生（愛知県豊田市立東保見小学校）：「多文化教育の取り組みに関わって」

コメンテーターは、講演に引き続き、藤原孝章先生にお願いしました。なお、本研究科の森田真樹教授がコーディネーターを務めました。シンポジストの先生方からは、各学校段階における、地域に根付いた先進的な取り組みが紹介され、フロアからも多様な質問があり、活発な議論が展開されました。

※シンポジウム終了後、1階生協ラウンジにて情報交換会（17：15～18：30）が行われ、講演者、シンポジストの先生方と会員間で交流を深めました。